

校長室だより「伸びゆく梢」

文責 柴田町立船迫中学校 校長 三浦 道子

1学期前半を終え、明日からいよいよ夏休みです。コロナの感染者も全国的に増え続け、心配な面もありますが、今までどおりの感染対策がみなさんの身を守ります。基本的な生活習慣とルールを守って健康な夏を過ごしましょう。

有意義な夏休みのために



1ヶ月の夏休みをどのように過ごすかで、1学期後半の生活はずいぶん変わってくるのではないでしょうか。夏休み明けの8月30日31日は期末考査があります。各学年のしおりにはテスト範囲やポイントが書かれていますので、それを自分の力に変えるために、ぜひ夏休みは図書室に足を運んでください。船迫中学校独自の学習室の10日間は、事前の予約がなくても自由に参加できます。部活の前後にぜひ参加してください。また、柴田町教育委員会で主催する学習会も夏休み後半にあります。上手に活用してほしいです。

私は2週間に一度、自分の住んでいる市の図書館を利用します。そこで見かけるのはフリースペースで勉強している人の多さです。もちろん大人もいますが中学生や高校生の数に圧倒されます。

冷房完備の静かな環境であることも人気の理由でしょうが、なぜ、わざわざ自宅以外の場所に来るのでしょうか。「周囲に人がいた方が集中できる。」「予定の時間内で勉強を進められる。」「家だとテレビやゲームの誘惑に負けてしまう。」等、様々な理由が考えられますが、誰か他人の目があった方が、勉強が進むという定説もあるようです。

よく、ファミレスやカフェでも懸命に勉強している人を見かけますが、同じ理由からでしょうか。

さて、3年生にとっては特にこの夏は重要で、「夏を制すものが受験を制す。」とか「受験は団体戦。」とも言われます。なぜ、団体戦なのでしょう。目指す高校はそれぞれ違うのに……。私が考える理由は一つです。それは励まし合えるということです。「孤独に受験勉強しているのは自分だけでない。」「Aさんが励ましてくれた。」「Bさんが分からないところを教えてくれた。」「Cさんはもうサマーワークを終わっているから、自分も頑張ろう。」そういう気持ちが働き、絆も深まっていくから団体戦なのだとは信じています。

まずは、図書室で先生や他人の目を意識し、勉強する環境に身を置いてみましょう。

そしてもう一つ。宿題に追われる生活ではなく、家族に「宿題は？」と責められる生活ではなく、目標を立て、夏の勉強を制してください。

また、分からない箇所はタブレットドリルも活用し、基本の問題に戻ることも大切です。みなさんが勉強できる環境は、本当に恵まれていてうらやましいです。裏面も参考にしてください。

(夏休み前集会の校長講話より)

吹奏楽部コンクール「名取・仙南地区大会」



7月17日に吹奏楽部のコンクールが岩沼市民会館でありました。15日に行われた激励会では全校生徒を前に迫力のある演奏を披露し、応援団から熱いエールも送られました。迎えた当日は、『吹奏楽のための「ランドスケープ」』という難易度の高い曲を心を一つにし、見事に演奏しました。結果は惜しくも金賞（県大会出場）は逃しましたが、演奏を終えた部員は笑顔で互いを讃えていました。



吹奏楽部のみなさん。素敵な演奏ありがとう。これからも期待しています。

勉強できる環境や時代に生きている。

そのあいがたさを考えよう。

『私が勉強したいという思いを、銃で撃つことはできない』

「2012年10月9日。15歳の少女が通学途中に銃撃にあった。少女の名は、マララ・ユスフザイ。ただただ、勉強がしたいと願う少女だった。」

「女子が登校したいという理由だけで、タリバンはその前の年に150もの学校を破壊していた。」

「武器より一冊の本をください 少女マララ・ユスフザイの祈り」

ヴィヴィアナ・マツア : 金の星社

『学びとは、決して人から盗まれることのない財産です』

「勉強が好きじゃなくてもいい。おもしろいことが一つあればいい。」

「勉強はたいていつまらないもの。でも、学んで損をするということはない」

「残念なことに、豊かな国では学ぶことの重要性が見失われがち」

「満足に勉強できない国や地域でどんなことが起きているのか、そのことに思いを巡らしてみることにも必要です。」

「なんのために学ぶのか」 池上 彰 : SB新書

『村人のうち1人が大学の教育を受け2人がコンピュータをもっています。』

けれど14人は文字が読めません。』

「世界がもし100人の村だったら」C. ダグラス・ラミス対訳 : マガジンハウス

『学び続けるか 兵士になるか 爆弾が直撃しないよう祈ることしかできない。』

ウクライナからの留学生 バドゥリン : 河北新報記事

『今、ウクライナでは750万人もの子ども達が命の危険にされされ、』

学校さえも攻撃の的となっている』

: ユニセフ

『読み書きができない。そんな現実と向き合いながら、この70年を過ごしてきた人々がいる。戦中戦後の混乱の中で教育の機会を奪われた彼らは、80歳を超えた今、「学び」を始めている。「読み書きがしたい……」純粋な勉強への思いとともに、今日も机に向かう。』

: 沖縄 Yahoo!ニュース編集部